

## 第4回懇話会における意見の概要

		主な意見(要旨)	事務局回答	
基本構想最終案について	1)基本理念(コンセプト)	○この公園の特徴として動的な空間と静的な空間を併せ持った公園だと考えられる。「交流・にぎわい拠点」というよりは、「ゆとり」という言葉を入れてもいいのではないか。(姥浦委員)	コンセプトの「交流とにぎわい」とは、交流の中にゆとりが含まれている。この公園では様々なイベントが行われるので交流とゆとりではにぎわいの表現が弱くなってしまうので「交流とにぎわい拠点」とした。 <u>この公園でどのようなゆとりを感じられるかを基本コンセプトの下の表現の中で解説することにしたうえで、コンセプトについては“「ひと」と「まち」をつなぐゆとりとにぎわいの拠点”と表現する。</u>	
		○この公園は広く開放的なイメージがあることから「ゆとり」という言葉も合う。(岩間委員)		
	2)その他事項	○「つなぐ」というところに交流という意味合いもあるので「にぎわいとゆとりの拠点」というのはどうか。(高山委員、渡部座長代理)	いこいのエリアの上段の部分は、現在でも木立の中で休めるような空間になっている。この場所をもう少しみどりの中で憩えるような空間、ひっそりと休めるような空間にしたいという思いからと照明やライトアップなどで夜も安心して佇める空間にしたいという思いからサードプレイスという表現とした。	
		○この公園は「にぎわう場所でもあるが落ち着く場所でもある」ということをわかりやすく伝えるためには「にぎわいとゆとり」と表現すれば良いのではないか。		
基本計画で検討すべき内容	1)新本庁舎低層部、周辺まちづくりとの連携	○「交流」という言葉よりも「つなぐ」という一番大きなキーワードを残して「ゆとりとにぎわいの拠点」というのが良いのではないか。(本江座長)	○開放的なイメージが強く、サードプレイスというよりもオアシスという表現が合うのではないか。(岩間委員)	
		○動線アクセス手段に定禅寺通、一番町四丁目商店街と書いてあるが、市役所も入れたらよい。(姥浦委員)	○言葉の捉え方(感覚)の違いではあるが、オアシスだとゆとりのイメージに寄りすぎる気がする。この場所は周囲がオフィスアイや商店街といった役割が固定されたエリアで、その中に利用者の多様な思いを受け入れる場所というニュアンスでサードプレイスの表現は良い。(本江座長)	
	2)ウォークブル推進都市	○サードプレイスの考え方がわかった。(岩間委員)	○利用イメージのところに朝のさわやかな時間帯に楽器の練習をするような、聴覚を象徴する(印象付ける)シーンを入れても良いのではないかと思う。(岩間委員)	○各事業とスケジュールとの兼ね合いについて、もう少し引いた 500m 圏内くらいで整理して、それらとの連動を図っていける視点を持っていたほうがよい。(福岡委員)
		○七夕まつりの来場者数 20 万人は、全体の来場者数なら 200 万人に訂正いただきたい。(高山委員)	○今後、適切なタイミングで検討内容を提供いただけると議論も深まりやすい。一体的利活用の中心となったエリアということと連携すべきエリアとの線引き、そのエリアの分け方の考え方を慎重にこれから議論した方がよい。(福岡委員)	○ウォークブルの回遊構造に関して、公園を計画していく上で重要なのは、どういう回遊構造、回遊ルートを作りたいかというところ。勾当台はその中の心臓部と思うので、ウォークブルの回遊構造を少し街の中のエリア分けをもう少し解像度を上げて、基本計画の中で検討できればよい。(福岡委員)

		主な意見(要旨)	懇話会での事務局回答
基本計画で検討すべき内容	3)マネジメント関連	○「5.エリアマネジメントの展開」に関して、本懇話会ではその整備(スキーム)についての議論や、一体的な利活用を推進していく組織の団体は資料に書かない方針なのか。(岩間委員)	利活用やマネジメントの検討といったところは、公園整備を検討していくことで重要な項目であると考えている。基本構想から基本計画へと進むことでより公園整備内容が明確化されることと同時により具体的な利活用やマネジメントの検討も進めていきたいと考えている。そのためにも今後の懇話会ではこのような議論も行いたいと考えており、これまでと同様に議論を踏まえた検討結果を基本計画では書き込みたいと考えている。
		○運営組織についての議論のスケジュール感、イメージはあるか。時間がそんなにあるわけでもないので、可能性の検討はなるべく早くイメージしていただけるとよい。(本江座長) ○公園としてどういう維持管理、マネジメントが望ましいのかということや新本庁舎とすり合わせ、そのプロセスの中で互いに社会実験的なことをやりながら、3~4年後に向けてすり合わせていくということになればよい。(姥浦委員)	現在は運営組織についてのスケジュールは作っていない。将来の運営団体になると考えられる方の意見を伺いながら、基本計画の中で情報を取っていきスケジュールを示す形になると思う。その過程で、社会実験などで利活用するフィールドを固めながら運営についての検討をしていきたい。
	4)その他事項	○仙台市の中でユニバーサルデザインという言葉が使われているのか。昨今インクルーシブデザインという言葉もある。(福岡委員)	仙台ではインクルーシブという言葉はインクルーシブ遊具のことをイメージされる場合が多いことから、今回はユニバーサルデザインという言葉を使っている。
		○喫煙所をどうするは整備計画では大きな課題だと思う。公園の使い方としていろんなことができると思うと、喫煙の場所等は考えた方がいいのではないか。(福岡委員)	タバコについて非常に重要な検討課題だと思っている。現在の状況は公園の魅力向上を図る点でも現在の状況では問題があるとの認識がある。勾当台公園については公園内全面禁煙とすることで問題が解決するものとは考えていないので、基本計画の中で検討していきたい。
		○勾当台公園の特性に3つの広場と、新本庁舎の方は4つ広場があり、今後基本計画の中で、それらはどういう風にして関係づいていくかということが検討は大事である。(福岡委員)	3つの広場は現況のことで、今後、新本庁舎の広場などと連携した一体的利活用や連携について、基本計画の中でより検討していきたい。
		○「市民活動を象徴する」は、街から見たときに公園を介してどんな都市を作っていくのか、どんなエリアを作っていくのかという反転させた検討が基本計画の中で必要である。(福岡委員)	市民活動の象徴は、上位の計画の中での表現だが、今後の検討においては、ご指摘のとおり投げかけもあると考えている。
議論総括 (本江座長)		<p>各委員から出た意見、議論を踏まえて、少しの修正と基本計画段階でやるべきことの宿題を投げかけたので、対応いただければと思う。サブタイトルは議論あったコモンガーデンを作るという基本理念を共有して、コモンの場所をちゃんとつくる。楽しいだけの場所ではないというのがあって、社会的に民主主義が危機を迎えている現代にコモンの場所、市民が集まって活動する場所、ここではいろんな異議申し立てもあるしたくさんの議論もある。みんなが集まって仙台市というものを作っていくことが重要になっているので、このコモンガーデンが「ひと」と「まち」をつなぐのだという覚悟を持って進めてほしい。リラックスできるだけの公園を作るだけだということにならなかったことは良かった。都市の中心部の公園というのは山の方の公園とは違う、住宅地の公園とは全然違う責任と役割があると思います。それを踏まえたものとして作るというのを共有して進めていってもらえればよい。</p> <p>今日の議論を踏まえて修正したものが本懇話会としての勾当台公園再整備基本構想の最終案ということとする。</p>	